

社会受容性：立地困難性（最終処分施設）

シナリオ3（全量直接処分）

- 現時点で、貯蔵されている使用済燃料が約1.6万tU、ガラス固化体が約2,600本ある。放射性廃棄物の処分対策は将来世代に先送りすべきでない。
- 最終処分施設の立地は**いずれのシナリオでも容易ではない。**
- ~~最終処分施設の面積は他のシナリオと比較して大きくなる。~~
- 直接処分に関する十分な知見が得られるまで本格的な立地活動開始が困難なため、選定作業が遅れる可能性がある。
- プルトニウム等の核物質を埋設することに住民の理解の獲得が必要である。